

此頃小望遠鏡で面白い星

N K 生

○鯨座 長週期變光星

赤經 2 時 15.3 分 赤緯南 3° 20'

1596 年フアブリシウス Fabricius の発見した最初の長週期變光星で其の典型的なものである。Hartwig の表には極大 2.0 等極小 9.0 等週期 331 日と興えられて居るが著しく不規則で極大は 1.0 等近くもなつた事もあり 5.6 等にしか過ぎなかつた事もある。極小もほぼ 9 等であるが定つて居ない。週期にしても平均が 331 日であるので不規則である。今年 3 月初旬に極大に達するはずである。(1 月下旬五等まで上昇セリ)

ハーヴァード年報第 37 卷の比較星

星名	赤經赤緯	光度
牡羊 α	0201 22	2.19
鯨 β	0088 18	2.39
鯨 α	0257 03	2.68
牡羊 β	0149 20	2.95
鯨 γ	0238 02	3.56
魚 α	0156 02	3.83
鯨 δ	0234 00	4.13
鯨 ζ ²	0222 08	4.27
鯨 ζ ¹	0207 08	4.39
鯨 μ	0239 09	4.62
λ	0254 08	4.93
ν	0230 05	5.10
75	0227 01	5.38
70	0217 01	5.53
	0216 00	5.67
	0212 01	5.84
	0225 00	6.08
71	0220 03	6.36
	0214 04	6.67

此の星は赤色星であるから分り易い。今年の極大は昨年よりは星が太陽に遠いだけ樂で今後段々よくなる。観測を乞ふ。此の星の右側の 9.2 等星は BD—3° 355 たる星で 115 秒離れて居る。最近エイケンにより二重星なること発見さる。

○オリオン座 ε² 752 重星

赤經 5 時 31.5 分 赤緯南 5° 57'

2.9 等 : 7.3 等 位置角 142° 距離 11.7³

伴星は青色で 50 倍でも見える。3 時 30 分なら充分見える。

次に 103° の方向に 10 等星がある。距離は 49 秒で 3 時では少し見にくい。此の星は寫眞には著しく感じる。最近 Eitken により二重星なる事発見された。

視野全體美しく星が多い。オリオン星雲の南端のアーチが淡く見える事に注意されよ。同じ視野内で著しく目につく星は次の ε² 747 なる二重星である。○ε² 747

赤經 5 時 31.1 分 赤緯南 6° 3'

4.7 等 : 5.6 等 位置角 223° 距離 36''

オリオン星雲を見る人が多く知つて居る星で 1 時でも見える。肉眼でも容易に單星として見える。此の對の西に ε² 745 なる對がある。8.5 等 : 8.7 等 347° 距離 29''

○N. G. C. 2683

H. I. 200 星雲

赤經 8 時 47.6 分 赤緯北 $33^{\circ} 43'$

星雲の少い双子座から蟹座あたりで彗星探しをやるさしげしばし出會ふ星雲である。横向きの渦状星雲で中央が明るく長い珍しい型の星雲である。3 時では余り見事でない。

○獅子座 α 二重星

赤經 10 時 4.1 分 赤緯北 $12^{\circ} 21'$

α は別名レグルス Regulus と呼ばれほぼ黄道上に位して居る一等星である。

1.34 等 : 8.4 等 位置角 307° 距離 $177''$

随分離れた星で 3 時 80 倍位で大低見える。Winlock はハーヴァードで此の伴星から 3 秒弱の所に 12.5 等星の伴星を認めた。8 等星は主星と同じ固有運動を有して居る。

○獅子座 γ

赤經 10 時 15.5 分 赤緯北 $20^{\circ} 15'$

γ は二重星である事はすでに述べたが此の星のすぐ南に獅子 40 さいふ 5.0 等星がある。普通の目で見えるから試みて見なさい。

○ハーシエルの分類

星雲星團の部の N. G. C. に對して HV 46 等と書いてあるが此れは W. ハーシエルの分類番號で次の如く區別する。

- I 明き星雲
- II 淡き星雲
- III 甚だ淡き星雲
- IV 遊星狀星雲其他特異なる星雲
- V 甚だ大なる星雲
- VI 甚だ密集せる星團
- VII 密なる星團
- VIII 散開星團

以上の八種で數は計 2509 ある。H は h のツオン、ハーシエル表に對して父のウイリアム、ハーシエルの表を現すから HV 46 は V の部の 46 番の事である。

○火星近況

12 月中視直徑少なるにより觀測せず。

火星觀測の爲め最良質の 6 吋半反射鏡を英國觀測者兼反射鏡製作者たるエリソン氏に注文 4 月に到着の豫定。遊星觀測に對し完全に色消しなる爲め良き反射鏡の有力なる事は明らかなる事實なり。日本に於て大口径の高倍率觀測が困難なると同時に濕氣の爲め使用には可なりの困難をともなふは明らかではあるが良き夜には可なりな働きが出来る。3 時と共に使ふ豫定である。

○鯨座

ウイリソン山天文臺のジョーイ Joy 氏の要求によりリック天文臺のエイケン Aitken 氏が 10 月 19 日鯨座の觀測せる結果眼視的の二重星なる事發見さる。伴星は青色にて變光星より半等級薄く位置角 132.3° 距離 $1.01''$ の所にあり。エイケン及びブーリツトル Doolittle の古き觀測には伴星を認めず多分最近に分離せるものならん。

ジョーイ氏はすでに分光研究より重星たるべきをのべ O は M6e より M9e なるスペクトル型を有し伴星は早期のものにて位置角 135° 距離 $0.3''$ なる事を豫想せり。

バーナード氏は前年極小近くに調べたるも伴星を認めず、10 月 19 日の光度は變光星協會の觀測によれば 9.2 等なる故に視差は $0.04'' \pm 0.02''$ と推定され従つて當日の絶対光度は ± 7 等なり。

○ドウイアゴ・バーナード彗星 1923 a

ロシア、カザン天文臺の Dubiago 氏が 10 月 14 日にアルゴ座に於て一小彗星を發見す。

10 月 14.5542 G. M. T.

赤經 7 時 46 分 42.7 秒

赤緯 $-20^{\circ} 37' 31''$